

希



い

(題字吉岡顧問)

親の会だより
第65号平成22年3月

発行
東大阪市手をつなぐ親の会
(年 3回)

地域活動、就労支援事業所協議会全国大会 (H22年1月22・23日)

山本 房子 (布施福祉作業所)

風光明媚な伊勢志摩の土地で開催された全国大会は、小規模形態の作業所の集まりであり、支援のためにはその良さを生かした事業展開を支援者、親、行政など関係者がネットワークをからませて工夫していくかに尽きるし、社会に発信する場としたいという趣旨で開かれました。

1日目 全体会

厚生労働省障がい福祉課より行政説明があり、自立支援法の見直しの流れや当事者中心に考えるという視点、連立政権の方針、応能負担を基本とすることを話されました。

次に、全日本手をつなぐ育成会常務理事、大久保氏の基調報告があり、障がい者総合福祉法はどんなものか話され、新政権による具体的な対応として、障がい者制度改革推進本部が、自立支援法では審議会中心であったが、閣議決定で設置され、25名中14名が障がい者団体からで、そのうち1名は育成会から出ています。これからどんどん議論していくがどう実現させるかが問題だということでした。

知的障がい者の就労を考えるシンポジウムでは、NPO静岡県作業所連合会「わ」理事長金刺氏と三重県障がい者福祉室長脇田氏のいわゆる作業所側の人と行政側の人が育成会運営委員の質問に答えるという形で行われました。

障がい者の働くことの意味や価値を親や職員が理解し、働きたい、働くことによって自分の存在価値を認められたという願いがかなえられるように、この人たちの生産成果を受け止めるのは地域だから、この地域への働きかけや基本的財産である人のつながりを大切に、東大阪でもやっている共同受注連絡会のような共同事業や開発を工夫して、活動を広げていきたいと話され、行政の方からは三重県での親の願いに沿った取り組みの説明や、小規模も残す必要もあることが話され、行政の役人の中にも親の大変さをわかって頑張って下さる人もいるのだと感じました。

これからは、どこかに行くところがあって守ってもらおうという福祉の概念から、障がい者も社会人として自立した生活をしたい、そのために働きたい、収入を得たいという方向に大きく進んでいきつつあるのを感じました。

2日目 分科会

3 工賃アップを考える

■マブイ六甲の赤松氏(就労継続支援B型に移行準備中)

職員3名ながら作業種目を増やし、レオパレス21の清掃、ポスティング等、強い信頼関係を(たとえば、社長さんと飲み屋さんに行ったりして)築けたところには、作業単価の値上げを交渉してきたり、シュレッダーの古紙回収をして、それでポットを作り、学校の教材に

テーマトーク

今回は **もちつき大会** です

【東大阪福祉作業所】

今日はお待ちかねのもちつき。早くから職員も準備に走り廻っています。今は電化製品で出来上がる時代。利用者達は朝礼も耳に入らずウロウロとして玄関の様子を窺っています。利用者のお父さんも早くから走って来てくださり、ウスや杵を洗って餅米の蒸し上がるまで下準備に大忙し。他の保護者の皆さんは出来上がり待ちです。

“さあ蒸し上がりました”お父さんは利用者がつきやすいようにとコネテ利用者に杵を渡し教えていますがついただけでは駄目、時々餅に水をつける作業があります。下手をすると手を叩かれる恐れがあります。うまく出来たもので保護者の中でベテランがおられ、利用者と呼呼吸を合わせて“ヨイショウ、ヨイショウ”と掛声をかけながら出来上がっていき、お母さん達はお喋りをしながらまるめていきます。その賑やかなこと又、その情景をバッチリ写真を撮ってくれる保護者、打ち上げは利用者は各班でお餅を使った料理、保護者は六万寺より頂いた「あん」でおぜんざいにして頂きました。坂本会長が、箸休めに美味しい漬物を持参していただき和気あいあいと話合いながら頂きました。

職員、利用者、保護者と一体となった楽しい時間を過ごす事ができました。お手伝いありがとうございました。

(三谷)

【第二東福】

昨年12月26日、土曜活動日におもちつきがありました。準備はみな作業所の方で用意して下さり、お母さん達はエプロンを持ってお手伝いに行きました。

10kgのお米を7回に分けて、みんなで交代でつきました。怖い程迫力のある利用者や力の入らない利用者、お母さん達も参加して賑やかに、次々とつきあがりました。途中、杵の柄が折れるというハプニングがありまし

た。杵が2本あったから良かったと思ったら、ガムテープをぐるぐる巻いて使ってみました。

主にお母さん達がもちをまるめ、かわいい鏡餅も作りました。最後は、つきたての餅の入った熱々のちからもちうどんをみんなでもいただきました。えび天、かまぼこ、ネギも入っていてとてもおいしかったです。ごちそうさまでした。

(宮本)

【布施福祉作業所】

布施福祉作業所では、今年も1月9日に地域の皆様方との交流をかねて、恒例の餅つき大会を屋外で実施しました。

今年は、長堂(第二布施)と合同で人数も増え賑わっていました。職員、保護者も朝早くから餅つきの準備と地域の方に振る舞うぜんざいの用意などを手伝いました。又本人達も地域の方の呼び込みに行ってくれました。

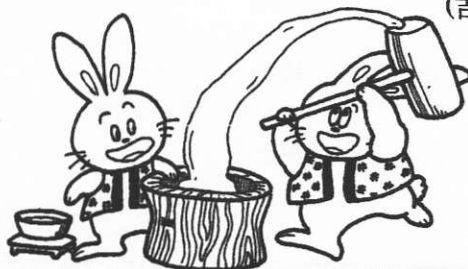
餅米も蒸し上がり10時頃から餅つき開始。始めての方、慣れている方も「よいしょ！よいしょ！」と皆さんの掛声と共に一人ずつ交替でつきました。本当に皆さんとても楽しそうでいい顔をしていました。

お餅も出来上がり、毎年参加されている方も居られ、色々と話などしながら、地域の方達と一緒にぜんざいを頂きました。

残りのお餅は、醤油、きな粉、大根おろしなどで頂きました。やっぱり、つきたては本当においしかったです。

お天気も良く、本当に楽しい一日ありがとうございました。

(吉武)



【東福六万寺】

東福六万寺の餅つきは、毎年1月の第二土曜日です。当日、朝10時から月例会、12時から新年会、食堂で利用者、職員、家族と一緒に食事会、その後、食堂が餅つき会場になります。利用者一人ひとり全員に杵を持って餅をついてもらいます。ひとりで杵を持ってない人は、職員かお父さん方に手助けして一緒につきます。

中には、一人で杵を持ってついてくれる人がいますが、石臼までついてしまう人もいます。周りでは、笑い顔でいっぱい。

女性の方々はつきあがった餅を丸めたり、きな粉を塗したり、餡こを餅の中に入れてたりおしゃべりしたり大変賑やかです。

そして、2時頃おやつとして皆でいただきます。今年は、インフルエンザの影響で中止になりました。

しかし、寄附をしていただいた餅米がある為施設職員と利用者で餅つきをする事になりました。

来年は、皆一緒にやりたいものです。

(中山)



【土曜レク】

昨年12月12日(土)土曜レクでおもちつきをしました。参加は利用者さん、ガイドヘルパー、お母様方と23人でした。器具でのおもちつきでしたが、もち米がおもちに変化していく様子は、オバサンの私も興味津々でした。出来たおもちは、ベテランのお母様に取り出してくれて、みんなで丸めました。大きさはさまざまでした。あんこ、きな粉、大根おろし、納豆。お母様が採って来てくれたよもぎを入れたよもぎもちとゆずの皮を入れた鶏のおすましと色々な種類のおもちで、利用者さんにどう？って聞くと8コ食べた！！って(女の子)と驚きましたが、みんな5コは食べているようでした。

つきたてのおもちは、ほんとに美味しかったです。(ごちそうさまでした。)

その後は、片付けと時間があつたので、ガイドヘルパーさんが利用者さんを散歩に連れて行ってくれました。一日楽しく過ごせました。ありがとうございました。頂いて帰ったおもちを純の弟(小5)も嬉しそうに食べていました。

(機田)

お知らせ

☆「成年後見支援センター設立のためのアンケートのお願い」の用紙は、もう皆さんのお手元に届いていると思います。皆様の声をお聞きし、事業内容に反映していきたいと思しますので、ご協力よろしくお願いします。

☆東大阪市手をつなぐ親の会主催の運動会は、平成23年1月15日(土)東大阪アリーナで開催する事に決まりました。

☆土曜レクの担当が4月から布施福祉作業所に変わります。保護者会の皆さん、お世話になります。一年間よろしくお願いします。また、今年度の東大阪福祉作業所の世話役さん、お世話になりました。楽しい思い出ありがとうございました。

☆地域支援事業「移動支援サービス」を利用するにあたり、市民税非課税の障害者は、現在月額2,000円の利用者負担をしていますが、平成22年4月1日より、東大阪においては無料となります。